

# 人材育成 負担は誰が

経済的に苦しくても高い学力を身につけられた時代から、いつから「努力しても追いつけない」時代が変わったのか。教育格差の背景には、将来の人材を育てるために国が公費を支出するという意識が広がらず、家庭の経済力頼みになっている現状がある。

## 教育 2014 格差を考える データ編



教育格差を埋めるために、何ができるのか。下村博文文科相に聞いた。

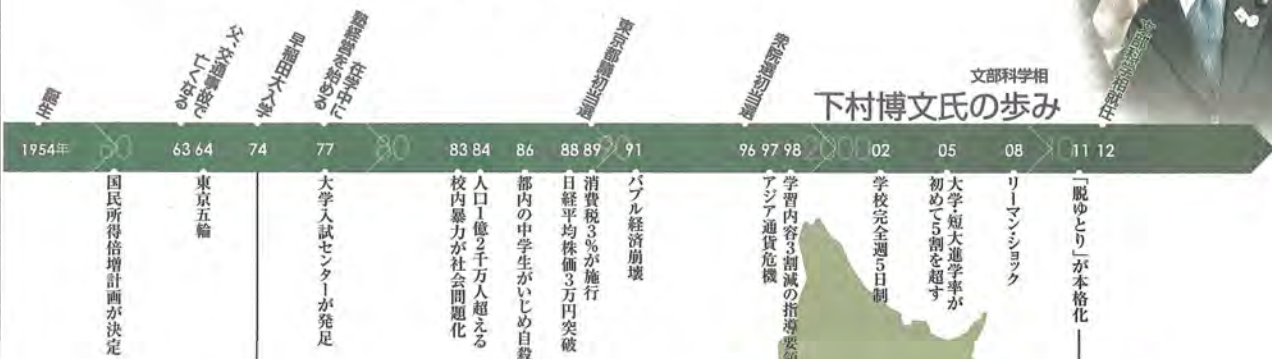
### 下村文科相に聞く

「脱ゆとり」が本格化してきている。地方で普通に通学し、勉強して普通に入るのが難しくなり、受験のための勉強をしないといけない。経済的なハンディが影響している。21世紀は暗記中心の能力が求められる時代ではない。ドラスティックな大学入試改革を進める。「私のように頑張らなきゃ」と言うのは簡単だが、今の子どもの方がもっとハ

### 脱ゆとり型奨学金 実現したい

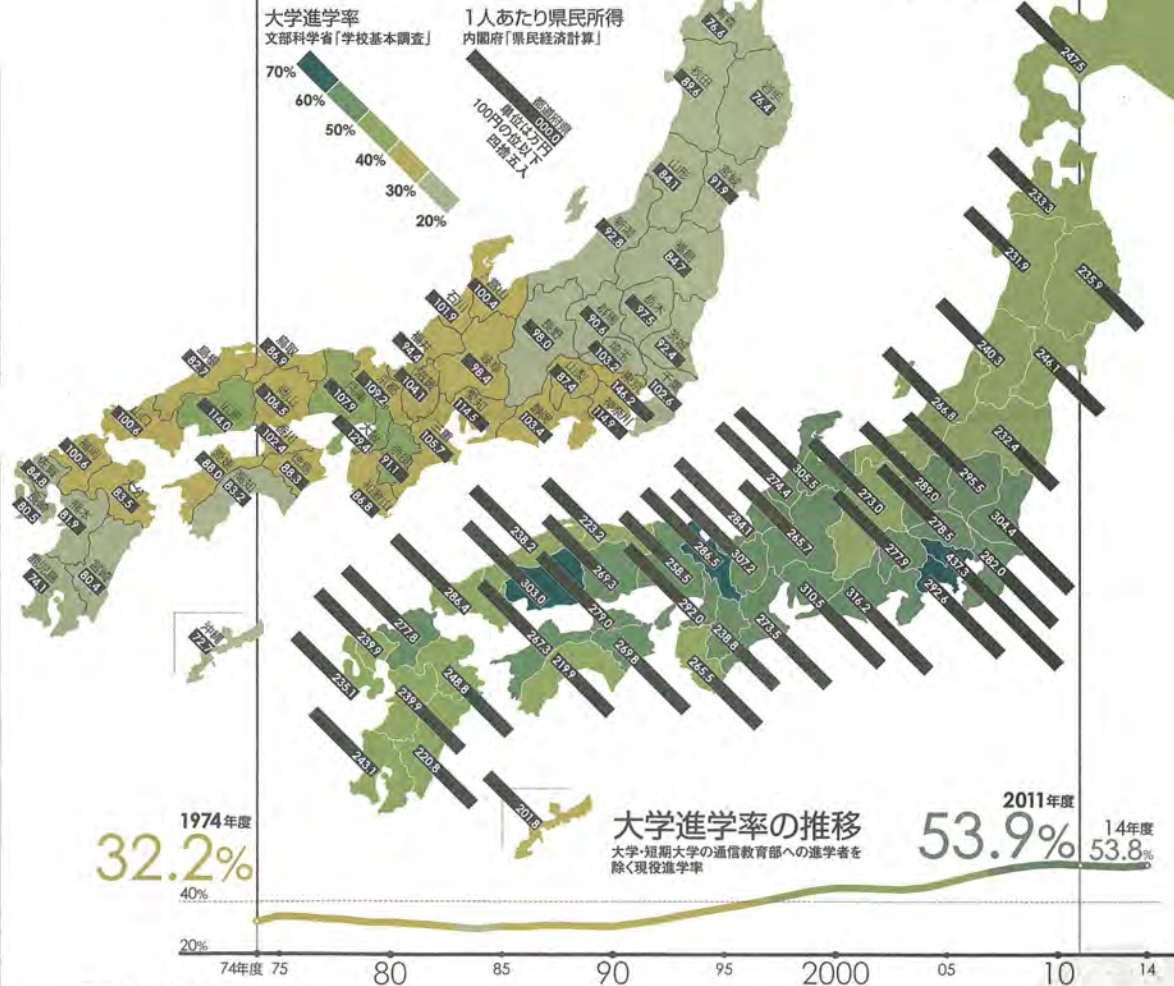
### 進学率 地域差が拡大

「貧困が学力にも学歴にも影響している。はい上がれるチャンスが昔よりも少なくなってきている」。自ら「苦学生」だった下村博文文科相が言うように、所得による教育格差は広がっている。下村文科相が早稲田大学に入学したのは1974年。この年と、最新の都道府県別データがある2011年で、大学進学率と1人あたりの県民所得の差を比べると、所得の差の広がりとともに大学進学率の差も大きくなっている。1人あたりの県民所得で



### 下村博文氏の歩み

### 1974 所得が多い方が 大学進学率は高くなる



1974年度 32.2%

2011年度 53.9%

大学進学率の推移

### 家計に占める 教育費の割合は?

1974年 2.57% (3650円)

2013年 5.99% (1万9093円)

### 格差はどのように 広がってきたか?



### 教育費 家計が頼り

公費負担率 OECD調査で最低

「人材こそ唯一の資源」と言われ続けてきた日本。しかし、肝心の教育費は、先進国の中でも少ない方だ。経済協力開発機構(OECD)の調査で、2011

3.6%で、29カ国のうち最低だった。日本では、幼稚園から大学まですべて公立に通った場合でも、約720万円の教育費がかかる。すべて私立に通わせ、大学で自宅外から通学した場合は、約2300万円に跳ね上がる。大学進学など、「子どもの教育は親が負担するものだ」という考え方が根深いことも背景に

あるが、重すぎる負担が子育てから遠ざける原因になっているという指摘もある。下村文科相は「非正規雇用が4割近くで、負担できない親も増えてきた。そうした人たちのチャンスを広げるためには、公財政支出を高めていくことだ」と話す。(河原田慎一、高浜行人)

教育費はいくらかかるか? 幼稚園から大学卒業まで公立と私立を比べてみると



### 日本の教育費の 対GDP比率は 平均以下

| 国        | 対GDP比 |
|----------|-------|
| デンマーク    | 7.9%  |
| アイスランド   | 7.7%  |
| 韓国       | 7.6%  |
| ニュージーランド | 7.5%  |
| イスラエル    | 7.3%  |
| チリ       | 6.9%  |
| 米国       | 6.9%  |
| カナダ      | 6.8%  |
| ベルギー     | 6.6%  |
| フィンランド   | 6.5%  |
| スウェーデン   | 6.3%  |
| オランダ     | 6.2%  |
| メキシコ     | 6.2%  |
| アイルランド   | 6.2%  |
| フランス     | 6.1%  |
| OECD平均   | 6.1%  |
| スロベニア    | 5.9%  |
| オーストラリア  | 5.8%  |
| オーストリア   | 5.7%  |
| スイス      | 5.6%  |
| エストニア    | 5.5%  |
| ポルトガル    | 5.5%  |
| スペイン     | 5.5%  |
| ポーランド    | 5.5%  |
| 日本       | 5.1%  |
| ドイツ      | 5.1%  |
| チェコ      | 5.0%  |
| イタリア     | 4.6%  |
| スロバキア    | 4.4%  |